あなたの心にジャストミート 10 月 17 日メッセージ

聖書は何を語るのか（Ⅱテモテ 3:13-17）

世の中には、いろいろなことばがありますが、神様のみことばは聖書だけです。ですから、聖書を知らないと、どんなに世の知識が豊かであっても、無知であり滅びるしかなく、かえって世の知識ゆえにさまよいは大きくなります。また、聖書を読んでいても、正しく知らずまちがって理解すると、わざわいにあいます。私たちは、聖書のみことばを聞くことができる幸いな神の子どもです。みことばを正しく知り、自分の中に刻印、根、体質となるように心に覚悟を決めましょう。聖書の中心の内容は、永遠に変わらないことです。それを正しく確認して、自分のものとしましょう。

聖書は、膨大な量があり、長い年月をかけて書かれたものですが、その内容は、まず、人間は罪人であり、自らは罪の問題は絶対に解決できないということです。この内容を聞くことを人間は拒否する本性を持っています。神様が恵みを与えてくださった人だけが聞くことができるのです。どんなに人間が努力しても、がんばって豊かになっても、頭を使って発展しても、絶対に罪の問題は解決できないことを、聖書は明確に語っています。罪の問題を解決できないだけではなく、少し自分でうまくできたと思うと、神様に敵対する方向に向かうのが人間の本性です。自分が少しできる長所がある思い、努力、豊かさ、発展に磨きをかけようとして、偶像崇拝、宗教、占いなどに向かいます。それは、悪霊を招いて、悪霊に頼る道です。沼に落ちている者が、暴れてより深く陥るようなものです。それが人間の限界です。その結果、霊的にも、精神も、心も、肉体もすべて病んで、人生のバランスが崩れて滅びるしかありません。人生が病んでいる運命の中にいるのです。すべての人は罪人で、人間では解決することはできないのです。神様が特別に選ばれて、扱われたイスラエルも、罪の問題は解決できません。それが聖書の証言です。それを圧縮してひとことで「すべての人は罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができない」(ローマ 3:23)と言っています。義人はひとりもいないのです。すべてが滅び、さばかれる運命の中にいます。そのことを人間は聞こうとしません。まさか、そこまで腐っていないと思っているのです。そのように神様が言われることをありのまま受け入れることができないのが罪の本性で、悪魔のしわざです。

それゆえ、神様は最初から罪の問題の解決をひとつだけ語られました。女の子孫が蛇の頭を踏み砕く(創世記 3:15)、キリストだけが解決であり、希望であると語られたのです。頭の中が複雑であるなら、理論的に賢くても、聖書を正しく理解していないことです。その結果、世や人に期待して失望するようになります。期待するところは他にありません。ただ、キリストだけが希望であり、期待することができるのです。人に期待したり失望したりしますが、それは心に要塞のようなものがあって、聖書の内容をそのまま心に受け入れることができないのです。悪魔のしわざに捕らえられているので、自分が賢いと思い、自分なりの理由でこうなっているのだと思い、聖書が語ることに抵抗します。聖霊がその心の要塞を打ち破ってくださって、心の中に、キリストだけが希望であることが書き込まれるようになることを祈ります。これは、人間の知恵で分かることではなく、ただアーメンとありのまま受け入れるだけです。人間は罪人であり、自らは解決できず、キリストだけが希望であることが、旧約聖書の内容です。

そのキリストが実際に来られました。それがイエス様です。イエスが「その」キリストです。女の子孫である、そのキリストなのです。その証拠として、イエス様は処女マリヤから聖霊によって生まれ、地上におられる間、神様しかできないしるしと不思議と奇跡を行われました。イエス様のことばは、権威がある神のことばでした。証拠中の証拠は、身代わりとなって、十字架で死んでくださり、かかとにかみつかれる預言を成就されたことです。そのあと、死の力を打ち破り、復活され死に勝利されました。いまは、天に上り、神の右の座におられます。イエス様のみが唯一の希望キリストです。イエスは、そのキリストです。

ですから、ユダヤ人も異邦人も、人間がどうであっても、だれでもこのイエスを信じる者は永遠のいのちを持つようになります。いままでの人間中心の法則ではない、新しい法則です。イエスの御名を呼ぶ者は救われます。信じる者は永遠のいのちが与えられるのです。世の中の言うことすべて無視して、ただ信じるだけで救われます。それゆえ、神様が選んでくださった人には、good news になります。信じるだけで、だれでも、永遠のいのちを得る。これが、聖書にだけある法則です。どこの国であっても、永遠に変わらない法則で、恵みによる信仰であり、神様からの賜物です(ヨハネ 3:16、ローマ 10:13、ガラテヤ 3:28、エペソ 2:8)。これを中心に展開するのが、聖書です。それを福音と言い、これが 4 福音書の内容です。

人間は罪人で自分では解決できないこと、キリストだけが希望であること、イエスがキリストであること、イエスの名を呼ぶ者は救われること、このとおり受け入れて信じる者は、過去、今どうであっても、まったく関係なく、イエスの霊が宿る尊い神の子どもです。神様がまったく新しく造り変えてくださいました。肉体の変化ではなく、神の霊が宿る神の子どもです。これを聞けないように悪魔が邪魔します。聖霊がとりなし、要塞を打ち破る力で、心の板に刻むように働かれます。神の霊が宿る神の子どもであり、二度とたましいを奪われることはない、永遠のいのちの主人公です。世はキリスト以外は希望がありません。ですから、イエスの霊が宿る私が存在する理由は、この世にキリストを伝えて神の国を建てることです。信者の人生の存在理由を、聖書は明確に語っています。国、年齢、関係なく、生きている理由は福音宣教です。その目的のためのツールとして、才能も職業もあります。この世の希望はキリストの他にはありません。これを確認して、そのための人生だと歩むのが巡礼者の歩みです。イエス様は、今現在、教会と信者を通して世界福音化を成し遂げておられます。歴史が動く理由は、福音宣教、世界福音化のためです。世の中がどのように変わろうとも、この世界福音化、福音宣教の理由は変わりません。これが、使徒の働きから黙示録の内容です。

聖書のいちばん軸になる内容を握りましょう。聖書の 66 巻の圧縮した内容を、自分の手に握って読んでいきましょう。その軸を中心にして、すべてを見るようにしましょう。ひとつに圧縮して、握ることを編集と言います。そのあと、自分のこととして使うことができます。圧縮して手に握るために、祈りの中で繰り返し、反復して、口ずさむとき、脳細胞に刻印されます。脳に刻印されると、人生を聖書に基づいて編集するようになります。そして、どんなことも、神様のみことばに答えを求めましょう。講壇では必ず答えが語られます。「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます」その力を体験する勝利のクリスチャンになるようにお祈りします。

1 部 －Ⅱテモテ 3：13-17 聖書は何を語るのか。
なるほど/聖書を知らないと無知に陥り、聖書を間違って理解すると災いに陥り、聖書を正しく知ると真の癒しと勝利を味わうことになる。
ならば/聖書が、Only イエス Only いのち Only 伝道と私の手に握られるように編集しよう。
2 部 －Ⅰテサロニケ 5:16 いつも喜んでいなさい。
なるほど/現実と環境は変わるけど、変わらない救いの祝福と神の愛と力を知っていれば、常に喜ぶことが出来、サタンをひざまずかせる。
ならば/常に神の目線で、答えを見つける姿勢で、私の考えを下ろして、講壇と聖書に耳を傾けて、答えを求めよう。